

令和7年(2025年)度行政評価シート【個表】

令和7年6月20日

評価対象事業		評価者	指令情報課長 竹ノ谷直人	
消防-09	指令活動事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	指令情報課
重点事業		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	5-(1) 防災・安全	施策の方針	5-(1)-③消防機能の整備・充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民等を各種災害から保護するため
効果	災害に強い、安心して暮らせるまちづくりを図る

2 令和6年(2024年)度実施した事業の概要

・高機能消防指令センター整備事業を完了した。
 ・高機能消防指令システムを活用して、災害地点の特定から災害規模に応じた消防車両を効率的に出動編成し、消防活動に必要な災害支援情報などを統制しながら、災害事案の完結まで迅速に処理できる体制を確立した。
 ・大規模災害時に緊急消防援助隊等で使用する共通波は県及び県内市町村と共同で維持管理を行うとともに活動波の維持管理を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)	事業費(決算/当初)(千円)	指標(目標値) 予算額(千円)	
01	指令センター運用事務	消耗品費、指令専用回線等電信料、通訳業務委託費、システム利用料、研修旅費	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率(%)	100 / 100	13,234 / 14,123	100	100%
02	指令センター点検事務	高機能消防指令センター保守点検委託料	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率(%)	100 / 100	29,986 / 32,521	100	100%
03	指令センター維持修繕事務	備品修繕料	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率(%)	100 / 100	465 / 9,882	100	100%
04	災害緊急情報等発信事務	災害緊急情報録倉エフエム負担金	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率(%)	100 / 100	1,917 / 1,917	100	100%
05	共通波、活動波管理運用事務	活動波・共通波保守委託料	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率(%)	100 / 100	17,291 / 17,295	100	100%
06	指令センター運用事務	高機能消防指令センター更新事業	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率(%)	100 / 100	498,630 / 883,642	100	100%
07	共通波、活動波管理運用事務	無線局登録点検、共通波設備更新事業	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率(%)	100 / 100	3,969 / 3,971	100	100%
08				/	/		
09				/	/		
10				/	/		
		財源内訳	国県支出金	922 / 666		10,000	
			地方債	442,900 / 867,600			
			その他特定財源	/			
			一般財源	121,670 / 95,085		122,348	
			事業費の合計(千円)	565,492 / 963,351		132,348	
		人件費(千円)		110,110		128,055	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	13	14	13	13	14	15
会計年度任用職員	0	0	0	0	0	0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	指令センター運用事務	高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線は消防活動において根幹を成す最重要設備である。年々外国人の観光客も増加しており、複雑多様化する大規模災害への対応や、救急等の要請に対し迅速・的確な指令業務・災害対応を実施するには本システム全般の安定稼働を図り、市民等へ更なる安全安心を提供する責務があるため。	高機能消防指令センター及び消防救急無線の主たる用途は、各種災害通信を受信し、災害の種別や規模に応じ災害現場から直近となる消防隊・救急隊等を選定し、出動指令を行うことである。そのためには、正確な情報を伝達し、出動車両間との連携を図り、様々な災害に対し迅速・的確な災害指令業務を実施することが根源となるため、高機能消防指令センターの安定稼働を維持管理すると共に、機能を十分に活用できるよう課員のレベルアップを図り、システム全般を的確に取扱える職員を多数養成し市民等へ更なる安全安心の提供に努める。	安定稼働を大前提としつつ、職員の技術の向上と、日々の研さんが必要である。
02	指令センター点検事務	消防・救急活動をサポートするため保守に要する経費。	鎌倉市が運用する高機能消防指令センターの365日24時間対応の保守を継続する。	特になし。
03	指令センター維持修繕事務	指令機器が最良かつ安定した稼働を維持するために支出する。	サーバーやネットワーク機器等の有寿命機器を中心に更新を行う。	特になし。
04	災害緊急情報等発信事務	災害発生や人命に危険がある場合などの災害情報を「鎌倉エフエム」の放送設備を利用して緊急の割り込み放送を行うため支出する。	市民に的確な情報を提供することにより、災害の発生及び被害の軽減を図ることに寄与する。	特になし。
05	共通波、活動波管理運用事務	指令システム及び活動波等の安定稼働の保守にかかる経費及び県が中心となる基地局整備の保守にかかる経費。	基地局等や高機能消防指令センターの365日24時間対応の保守を継続する。	特になし。
06	指令センター運用事務	令和6年度中に保守対応期限となる、高機能消防指令センターの更新に係る経費。	高機能消防指令センターの更新整備を完了し、機能向上を行うことで災害に強いまちづくりに寄与する。	職員の技術の向上と、日々の研さんが必要である。
07	共通波、活動波管理運用事務	既設無線局の登録点検及び県が中心となる基地局整備の更新設計に係る経費。	災害対応時の通信手段を確保し、出動車両間の正確な情報伝達を行うことに寄与する。	特になし。
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	2 目的達成のために手段(最小事業)を改善する余地がある
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2 受益者はいいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
	協働	市民等と協働して事業を展開しているか △.協働未実施

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 拡充 改善・変更 現状維持 縮小 休止・廃止
 高機能消防指令センター及び消防救急無線の主たる用途は、各種災害通信を受信して、災害の規模に応じた消防車両を効率的に出動編成、消防活動に必要な災害支援情報などを統制しながら災害事案を迅速かつ確実に処理できる体制を確立するもので、指令業務の根源となるシステムである。このため、高機能消防指令センターの安定稼働を維持管理するとともに、機能を十分に活用できるよう課員のレベルアップに努め、市民等の更なる安全安心の提供を図っていく。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線の更新・構築により、出動指令体制の迅速化などの向上を目指し、それに伴うシステムの維持管理を実施する。	目標値	100	100	100	100	100	100	
	実績値	100	100	100	100	100		
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--